

受験番号	
氏名	



2026年度 東京未来大学入学者選抜試験
一般選抜[筆記試験型] D日程(3月11日実施)

国語



【注意事項】

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 試験時間は1科目60分です。
- 3 原則として、途中退出は認められません。試験中に気分が悪くなった人や、トイレに行きたくなった人は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、シャープペンシル又は鉛筆で記入してください。
- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 「やめ」の合図があったら速やかに筆記用具を机上に置いてください。
- 8 試験終了後、問題冊子、答案用紙はすべて回収します。
- 9 その他、必ず監督者の指示に従ってください。

I 現代文 一般選抜「筆記試験型」 D日程(3月11日実施)

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

現在、コメ問題と呼ばれるもののほとんどは、コメでなく田んぼの問題である。このことは、コメ問題がコメ産業の発展によって自動的に解決されるものではないことを意味する。

コメ産業のみをみれば、まだまだ成長の余地がある。効率的なコメ作りに向けては、ロボットトラクター、スマートフォンで操作する田んぼの水管理システム、ドローンの活用、衛星によるセンシングデータや気象データのAI^㉔カイセキなどの研究と実装が盛んになってきた。顔なじみでなくとも田んぼを貸し借りしやすくなるように新しい制度も作られた。

コメの流通は、全体のうちスーパーマーケットが五〇%ほどで、ついで、農家直売やインターネット販売が一五%、家族・知人などからタダで手に入れたのが一五%、コメ屋などその他すべてをひっくり返した残りが二〇%と多様だ。こうして手に入られて消費者に炊飯されるコメは、コメ全体の三分の二にとどまり、残りの三分の一は外食や冷凍食品、コンビニのお弁当やおにぎりといった中食で食べられている。コメの流通や食べられ方の多様化に伴い、コメ農家による直接販売や、企業によるパックご飯の製造・販売なども盛んになってきた。

さらには、コメや、コメを原料とする米菓や日本酒、パックご飯、米粉麺などの輸出が増えつつある。また、麦などに含まれるグルテンを避ける食生活、いわゆるグルテンフリーのA^㉕は、グルテンを含まないコメにとって輸出の追い風となっている。コメやコメ加工品の輸出は、二〇一七年から二〇二〇年までで七九〇〇トン、八三億円も増えた。

国内でコメが食べられる量は勢いを増して減っており、その減少分を輸出産業がB^㉖カンワしているのは二%にすぎない。このため、国産のコメが減ることを危惧^{きぐ}する人もいるだろう。

(㉗) ①、注意すべきは、国産のコメが減ることが、必ずしも悪いことではないことだ。コメを食べる人が減れば、その分だけ競争が激しくなり、より人気のあるコメや、効率的なコメ作りが生き残るほか、コメの作りすぎが増えれば値段が安くなる。C^㉘コメを食べることしかコメとの関わりがない人にとってはよい話が多い。コメの使い方も、ご飯用のみならず、業務用に適したコメを作ったり、加工方法を工夫するなど、コメ産業が発展する余地は広がっている。

コメ作り関連の機械メーカーは、国産のコメが減るなかで、日本で培った技術を生かし海外への売り込みに力を入れている。若手の

コメ農家のなかには、日本でのコメ作りに見切りをつけて、海外でのコメ作りを検討する者もいる。

日本のコメ卸の最大手である神明ホールディングスは、日本のコメのみならず海外のコメも卸してきた。米国、中国、香港、ベトナムの拠点に加えて、二〇二一年にはコメの輸出大国であるタイに新会社を作り、マレーシアやフィリピン、欧州への輸出拡大を図っている。

コメ産業の盛衰から、日本のコメ作りの盛衰をそのまま語ることはできない。コメが食べられる量が減り続けているということは、コメ産業の発展を促す起点でもあるのだ。

つまり、日本人のコメ離れは、コメだけをみて考えればさほど深刻な問題ではない。本当に深刻な問題は田んぼのコメ離れである。田んぼの面積、コメを作った面積ともに日本史上最大だった一九六九年を一〇〇として、日本で作られたご飯用のコメの量、田んぼの面積、ご飯用のコメを作った田んぼの面積を、前後五〇年の間隔で比べてみよう。

一九一九年から一九六九年までの五〇年間では、ご飯用のコメは一・五倍ほどに増えたが、田んぼの面積や、田んぼのほとんどでコメが作られている状況はあまり変わらなかった。

これに対して、一九六九年から二〇一九年までの五〇年間は、ご飯用のコメが作られた量はほぼ半減し、五〇年前よりも一〇〇年前のほうが近い値となった。かといって、コメ作りが一〇〇年前と似た状況になったわけではない。大きな違いは、田んぼの面積や、ご飯用のコメを作った田んぼの面積が大きく減ったことだ。とくに、ご飯用のコメを作った田んぼの面積の減少、②「田んぼのコメ離れ」は、日本人のコメ離れよりも深刻に進んでいるのである。

かつての日本では、意識的、無意識的にコメは社会の話題の中心だった。古代からの祝詞のりとでイネが「奥都御年」と呼ばれるように、一年周期のコメ作りは時間の流れと一体化して認識され、コメ作りから派生した祭りや節句といった年中行事や、農繁期と農閑期という季節の区切り方も生まれた。収穫の喜びを皆で分かち合うだけでなく、思い通りにいかない天候に従いながら予定を変えたり、不作や飢饉ききんの悲しみを受け入れたり、コメは社会的地位やフウキにかかわらず関心事であった。江戸時代の石高制こくだかは最たるもので、コメが社会経済のモノサシにまで上り詰めた時代もあった。

これに対して、農家が全世帯の三％、国内総生産に占める①の割合が〇・八％にまで減った現在、農業、しかもコメの話題を論じるのは農家や農業に利害のある関係者がほとんどとなってしまった。ましてや田んぼの話に関心を寄せる日本人は、今やほとんどいないだろう。

二〇二二年、コメ作りに必要な面積は一二六万ヘクタールである。これは、東から順々にすべての田んぼにコメを作れば、北海道、東北、関東甲信、そして北陸の新潟県までの面積に匹敵する。フォッサマグナより西側の田んぼにはコメを一切作らなくてもよい計算

だ。しかも、年間一〇万トンずつコメの消費が減っている。一〇万トンというと、二〇二一年に岐阜県で作られたコメの量に匹敵する。この傾向が続けば、食卓から全くコメが消えてしまうことはなくとも、日本人全体にとってのコメ作りがどんどん疎遠になっていく。三〇〇〇年以上の歴史がある日本のコメ作りが、いまだかつてこれほどまでの危機的な状況に直面したことはなかった。

余った田んぼは、今や約九〇万ヘクタール、鹿児島県の総面積に匹敵する広さだ。都市住民から見れば一人あたりの余った田んぼの大きさはここ半世紀でそれほど変化していないが、農村住民一人あたりでみれば二〇二〇年に二三三平方メートル、テニスコートほどの大きさにまで拡大してきた。

余った田んぼが増えていることなど、田んぼの問題を含めた本質的なコメ問題をめぐっては、都市と農村との間にある認識のギャップが今後も年を追うごとに広がっていく。さらに、議会制民主主義のもと、人口を基準として一票の格差が是正されていけば、人口が減り続け、余った田んぼが増え続ける農村について、(Ⅱ)住民の理解や、政策の検討が深められなければ、社会の分断をもたらす火種にもなりかねない。

しかも、余った田んぼは現在のテーマであるのみならず、過去から引き継いだ日本人の資産を未来にいかに引き継いでいくか、(③)引き継がないことを決断するか、という過去と未来を結びつける重要なテーマなのである。

コメ問題という^{てあ}手垢のついた古いテーマのように思うかもしれないが、田んぼも含めてコメ問題を捉えるならば、今まさに日本人全体としてコメ問題の本質を知っておく必要がある。それは、コメの生産・(Ⅲ)消費にまつわる単なる知識ではなく、コメ問題の本質にある田んぼの問題まで掘り下げた知識だ。日本人の歴史に深く刻まれながらも、深く考える機会が減ってしまったコメや田んぼは、いま一度光を当てることで、日本の社会に迫りつつある最大の危機や、また現在、そしてこれからを生きる日本人がその危機に對してどのような選択肢をとりうるか、ということも教えてくれる。

(小川真如『日本のコメ問題』中央公論新社より 一部改変)

□ 文章中の(ア)・(イ)・(ウ)のカタカナを漢字に直しなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

ア カイセキ

イ カンワ

ウ フウキ

二 文章中の①・②・③に入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア すなわち	イ すると	ウ 次に	エ しかし
オ あるいは	カ さらには	キ しかも	ク 一方

三 文章中のⅠ・Ⅱ・Ⅲに入る最も適当な言葉を文章中から探し、それぞれ漢字二文字で答えなさい。漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

四 文章中のAに入る最も適当な言葉を、次から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 販売	イ 趣味	ウ 伝統	エ 潮流
------	------	------	------

五 傍線B「コメを食べることしかコメとの関わりがない人にとってはよい話が多い。」とあるが、具体的にはどんなよいことがあると筆者は述べているか。「」などのよいことがある」に続くように、三〇字以内で自分でまとめて答えなさい。（句読点も一文字とする。）

六

文章に書かれた内容と異なる文を、次から二つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 日本人のコメ離れの問題より、日本の田んぼのコメ離れの問題の方が深刻である。
- イ 一九一九年から一九六九年までの五〇年間で、田んぼの面積は一・五倍に増えた。
- ウ コメの消費量が減っているのに、コメ産業が発展していくことは見込めない。
- エ コメはかつて社会の関心事で、年中行事にもコメ作りから派生したものがあつた。
- オ 都市と農村では、余った田んぼの増加の問題についての認識の違いが大きい。
- カ 現在は田んぼの水管理システムでのスマートフォンを活用などの研究が進んでいる。

Ⅱ

言語事項・文学史 一般選抜〔筆記試験型〕 D日程（3月11日実施）

一

次の①～⑤の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。なお、ひらがなは丁寧に書きなさい。

- ① 問題点を喝破する必要がある。
- ② 芳醇な香りを樂しむ。
- ③ 首相が大臣を罷免した。
- ④ 真実を吐露した。
- ⑤ 所作に注意する。

二

次の①～⑤の意味を示す三字熟語を、四角の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 日常的なありふれたこと。
- ② 中途半端で未熟な知識や技術。
- ③ 将来の構想や計画。
- ④ 人を威圧するような態度。
- ⑤ 本来の能力や真価。

ア	金字塔	イ	生兵法	ウ	短兵急	エ	真骨頂	オ	偉丈夫
カ	不如意	キ	青写真	ク	茶飯事	ケ	居丈高	コ	日和見

三 次の①～④の問いに答えなさい。

① 次の句の作者を、ア～カから選んで記号で答えなさい。

分け入っても分け入っても青い山

ア	高浜虚子	イ	中村草田男	ウ	水原秋桜子
エ	種田山頭火	オ	河東碧梧桐	カ	正岡子規

② 次のア～カから、戦中・戦後の体験を表した詩「わたしがいちばんきれいだったとき」の作者を一人選んで、記号で答えなさい。

ア	石垣りん	イ	樋口一葉	ウ	茨木のり子
エ	与謝野晶子	オ	馬場あき子	カ	中村汀女

③ 次のア～カから、太宰治の作品を二つ選んで、記号で答えなさい。

ア	草枕	イ	高瀬舟	ウ	斜陽
エ	五重塔	オ	人間失格	カ	山月記

④ 次のア～カから、『風立ちぬ』の作者を一人選んで、記号で答えなさい。

ア	伊藤整	イ	井上靖	ウ	宮本輝
エ	重松清	オ	柳美里	カ	堀辰雄

Ⅲ 現代文 一般選抜「筆記試験型」D日程(3月11日実施)

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

「勉強は何のためにするんだろう」

こう悩んだ人は多いことでしょう。私も中学時代、高校受験のための勉強をしながら悩んだものです。そのときの母親の返事は「大人になったらわかるよ」というものでした。

答えになっていないじゃないかと思ったのですが、いまになってみると、つまり大人になってみると、よくわかるのです。

たとえば日常生活を送る上でのさまざまな知識は、小学校・中学校時代の勉強がもとになっています。私は海外取材も多く、ブローケン・イングリッシュを^②クシ^①(笑)しますが、基本は中学校時代に学んだ英文の構造です。

仕事柄、各教科の中学校の教科書をチェックすることも(Ⅰ)のですが、必要な知識を過不足なくまとめているのには舌を巻きます。

とはいえ、私よりは、この人に答えてもらった方がより説得力が増します。「数学のノーベル賞」と呼ばれるフィールズ賞を受賞した広中平祐氏です。

(Ⅰ) フィールズ賞とは、ノーベル賞に数学の部門がないので、別個に創設された賞です。カナダ人数学者ジョン・チャールズ・フィールズの提唱によって1936年に作られました。4年に一度開かれる国際数学者会議で^③ケンチヨ^②な業績を上げた40歳以下の数学者に限定して授与されます。ノーベル賞が毎年選ばれるのに対して、フィールズ賞は4年に一度であり、それも40歳以下限定ですからハードルが(Ⅱ)のです。

広中氏は京都大学理学部を卒業してハーバード大学大学院を修了。コロンビア大学やハーバード大学、京都大学の教授を歴任しています。

そんなすごい人が、「なぜ人は学ぶのか」という問いに、こう答えています。

「人間の頭脳は、過去の出来事や過去に得た^④a^①を、きれいさっぱり忘れてしまうようにできている。もっと正確に言えば、人間の脳は記憶したことをほんのわずかしかり取り出せないようにできているのだ。それなのに、なぜ人は苦勞して学び、知識を得ようとするのか。私は、それに対して、『知恵』を身につけるためだ、と答えることにしている。学ぶという中には知恵という、目に見えないが

生きていく上に非常に大切なものがつくられていくと思うのである。この知恵がつくられる限り、学んだことを忘れることは人間の非とならないのである。たとえば、忘れたことをもう一度必要にせまられて取り戻そうとする時、一度も勉強したことのない、全然聞いたことも経験したこともない人と違って、最低、心の準備ぐらいはできるし、時間をかければさほど苦勞しなくてもそのことを理解できることだってある」

私たちが学ぶのは、生きていく上で必要な「知恵」を獲得するためのですね。

人生で直面する問題は、クイズ番組で出題されるようなものとは異なります。単に b が試されるのではない、じっくりと自分の頭で考えることが要求されます。こういうときに力を発揮するのが「知恵」なのです。

「人間の脳は記憶したことをほんのわずかしき取り出せないようにできている」とはいえ、脳には無数の情報が蓄積されています。この情報は、必要とあれば取り出すことができます。これを広中氏は「知恵の広さ」と呼んでいます。

『「知恵の広さ」は勉強しては忘れ、また勉強しては忘れていくうちに、自然と脳の中につちかわれていくのである。

知恵がつくられる場所である人間の頭脳は、また、コンピューターなどと違って、物事を幅をもってみつめ、考えることができるようにできている。つまり寛容な思考態度をとることが人間にはできるのだ」

人間の頭脳には、この A があるので、ものを考える上で「連想」することができなのです。かつて読んだことのある詩や格言が、思いもかけないときに頭の中にひらめき、新しい文章を書くことができる。あなたも経験したことがあるのではないでしょうか。広中氏は、数学者らしく、次のような例を提示しています。

「連想の習慣は、いくつかの異なるものの間に共通点を読みとる脳の働きにもつながる。数学の簡単な例でいうと、円と三角形の共通点は、平面を内側と外側の二つに分割するという性質である。コ¹の字には、この性質はない。8²の字は、平面を B つに分割する。実際生活でも、議論をまとめる時に、異なった意見の共通点を発見する能力は大変有用である」

人間の頭脳は、コンピューターと違って「知恵の広さ」があり、寛容性があるがゆえに連想することができます。このところ AI（人工知能）が人間の能力を上回る日が来るのではないかとしきりに議論されていますが、世界有数の数学者の論からすれば、そんなことはないのでしょうか。

実はこの本の初版は1982年です。それが2018年7月、新装版として再デビューしました。30年以上も前の本なのに、まったく古びたところがありません。それどころか、AIという言葉すら知られていなかった時代に、すでにAIが c フキウしても人間は恐れる必要がない理由を述べているのです。

（②）蓄えた知識の量や、世界中から収集してくる知識の量では、人間はAIにかないません。でも、AIには c はあって

も d はありません。私たち人間は、人間の能力である知恵の広さや知恵の寛容性、そして連想する能力を身につけていれば、恐れることはないのです。

とはいっても、勉強しないでいては勝てないことは自明のこと。「なぜ勉強するのか」を知った上で、勉強に取り組みましょう。

(池上彰『ぼくはこんなふうになを本を読んできた』S Bクリエイティブより 一部改変)

〔一〕 文章中の(ア)・(イ)・(ウ)のカタカナを漢字に直しなさい。なお、漢字は楷書で丁寧書きなさい。

ア クシ イ ケンチヨ ウ フキユウ

〔二〕 文章中の①・②に入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア	ちなみに	イ	もし	ウ	したがって	エ	あるいは
オ	ただし	カ	たとえ	キ	つまり	ク	たとえば

〔三〕 文章中の(Ⅰ)・(Ⅱ)に入る最も適当な形容詞を自分で考えて、それぞれ答えなさい。漢字やひらがなは楷書で丁寧に書きなさい。

〔四〕 文章中の a・b・c・d には、次の二つのうちのいずれかの言葉が入る。それぞれにふさわしい言葉を選び、ア またはイの記号で答えなさい。

ア 知恵 イ 知識

五 文章中の A に入る最も適当な言葉を文章中から探し、漢字三文字で答えなさい。漢字は楷書で丁寧書きなさい。

六 文章中の B に入る最も適当な漢数字を前後の文脈から考えて、一文字で答えなさい。漢字は楷書で丁寧書きなさい。

問題は以上です。

